

業務用清掃ロボ、定額レンタルで普及拡大へ

◆定額レンタルサービスプランで価格のハードルを下げる

商業施設や空港などを自動で清掃する業務用清掃ロボットが注目を集めている。人手不足が深刻なことに加えて、コロナ禍でロボットの非接触、24時間稼働可能という点が再評価されている。

アイリスオーヤマは、2020年11月、業務用清掃ロボット事業を開始した。ソフトバンクロボティクスが開発・製造する除菌清掃ロボット「Whiz i (ウィズアイ)」をベースに、AIが間取りを学習して自動でルートを選び清掃する。人の手では掃除しきれない床のカビ菌やウイルスを除去する機能もある。定額レンタルサービスで提供し、利用料は月額3万5千円。

反復作業が多い清掃作業はロボットによる自動化に適していると言われながら、価格の高さが障壁になり、これまで普及がなかなか進まなかった。最近では、アイリスオーヤマだけでなく、オムロンソーシアルソリューションやパナソニックなども定額レンタルサービスプランを採用する企業が増えてきた。

◆病院の除菌・消毒作業も清掃ロボで省人化

最近では、病院や福祉施設向けにも、消毒・清掃ロボットを定額レンタルサービスで提供する企業が増えており、ソフトバンクロボティクス、ZMP、テムザック、サイバーダイナミクスなどが自動走行ロボットを相次いで投入している。

筑波大発ベンチャーのサイバーダイナミクスは、神戸市と共同で20年10月、新型コロナウイルス感染対策として行う消毒作業の省人化に向けた実証実験を公開した。同社が開発した清掃ロボットに、除菌液の噴霧器を装備、AIが施設内の走行経路を高精度で認識し、自動で消毒する。最大時速4kmで自律走行し、障害や人を検知すると自動で避け、再び元の走行ルートに戻る。清掃能力は2時間で最大約3,000m²、エレベーターを使った移動も試している。レンタル料は月額8万円で、すでに羽田空港、成田国際空港などに導入されている。

しかし病院をはじめ、中小企業経営施設の多くは、現在厳しい経営状態にある。コロナ禍を商機とし、さらなる低価格化が求められる。 【秋元真理子】